

市民とあゆむ

議会の

ひ

ろ

は

No.38 / 2025 Jan.

おかや市議会だより Okaya City Assembly News
2025年（令和7年）1月25日発行

巻頭
特集

議長新春挨拶&行政視察

P.2

新年の抱負 漢字一文字とその思い

P.3

見聞さ
特集

『対話集会』

・議員定数に関して P.8
・議員報酬に関して P.9

「旧市庁舎と重茶公園のイルミネーション」
写真：小松恵三さん

新年あいさつ

新年おめでとうございます。

市議会では、これまで様々な議会改革に取り組んでまいりました。現在は議員のなり手不足の解消に向け、定数、報酬などを切り口に、シンポジウム、対話集会などを開催し、活発な議論をおこなっています。今年も、市民の皆様の民意、そして議論を大切にし、ご期待に応えられますよう、その使命をしっかりと果たしていく所存であります。

また、岡谷駅周辺整備や川岸学園整備に関する任意の特別委員会を組織したところです。本年の干支の蛇が「脱皮して以って大蛇と成る」ように、新しい挑戦とともに、更なる成長を遂げ、市民の皆様と行政とともに、活気ある年にしたいと思っております。

本年もよろしくお願いいたします。



議長 今井康善

常任委員会の行政視察（政策提言に向けて）

市議会には、総務委員会、社会委員会、産業建設委員会があり、議案や陳情などの審査のほか、行政や地域の課題に対する調査、研究を行っています。それぞれのテーマを決め、岡谷市の現状、課題を見つめ、どのような解決策があり、どのような方向性がより良いのか、など様々な視点で探究しています。その過程では、行政として、同様の課題を抱える地域、解決策を見出している先進地などの視察を行っています（行政視察報告書は市議会HPに掲載）。

今後、各委員会からの成果である提言案を全議員で共有し、さらに議論を深めたのち、行政に政策提言書として提出します。

今号では、各委員会の政策提言のテーマと令和6年度の行政視察について、ご報告します。

総務委員会

①テーマ 民間の力を引き出す公民連携の仕組み作り

【岡谷市における公民連携の推進によるエリア価値向上と市民生活の充実】

②概要 少子高齢化、人口減少、公共インフラの老朽化といった問題が顕在化する中、これらの課題を克服し、地域の価値を高め、持続可能な行政運営



吉田浩委員長

を実現するために、従来の行政主導型のアプローチに加え、民間主導で公共サービスを提供する「公民連携」のスキームを活用した新しい形の自治体運営という観点も重要。

③視察先 (株)オガール（紫波町）、紫波町役場、盛岡ローカルハブ(株)（盛岡市）等



社会委員会

①テーマ

障がい者の自立に向けて、すべての市民が支えあい、こころ豊かになるまちを目指して

②概要 全国的には障がいのある人は増加傾向にあり、とりわけ精神に障がいのある人は大きく増加しているほか、障がいのある児童や発達に支援が必要な児童も増加し続けており、障がいのある人やその家族が抱える課題も複雑化・複合化するなど障がい者（児）及び家族を取り巻く環境は大幅に厳しい状況である。市の事業においての課題や問題点を抽出し議論を重ねた結果



山崎仁委員長

「障がいのある人が楽しく生きがいをもち生活できる環境が整っているのか」に注目し、調査研究を重ねる。

産業建設委員会

①テーマ

地域資源を活用した観光の振興と地域経済の活性化に向けて

②概要 時代が求めている「観光ニーズ」や「ツーリズム」の現状分析、認知度を高めるための「地域ブランド戦略」の具現化、観光振興を推進する公民連携組織の研究や担い手の育成方法などを多角的に調査・研究。



渡辺太郎委員長

③視察先

「藤テリア」(藤沢市)、「日本理化学工業株式会社(川崎市)」、「横浜ラポール」(横浜市)等



③視察先 サイクルツーリズム(相模原市)、「ロケツーリズム事業」(綾瀬市)、「地域資源の活用」(小田原市)等



令和7年 新年の抱負 漢字一文字とその思い

議長新春挨拶・行政視察

一般質問

特集

一般質問

12月定例会



議長 今井 康善

挑戦を続けつつ自身の成長と共に可能性を広げる一年に



秋山 良治

備えあれば憂いなし。みんなで行うまちづくり。



主橋 学

市民と誠実に向き合い、信頼を大切に市政に取り組む



宇野 香三

日々の努力を続ける。持続で結果を出す飛翔の一年に。



藤森 弘

庶民の生活や安全を守り、社会的弱者を見守る共生社会



小松 壮

一人でも多くの人に光が当たるようなお手伝いがしたい



山崎 仁

すぐ行動するを身上としているが、今まで以上に動く



花岡 健一郎

無理せず有るものを活用する。



田村 みどり

自分で決めたこの道。すべきことに心を打ち込み努める。



酒井 和彦

まもなく任期の半分、転ずべきところはないか考える。



上田 澄子

希望ある未来に向かって、共に今こそ変化を!



早出 すみ子

前に前へ!前を!議員として力をつけ前進しよう。



今井 浩一

学びをより深める、深堀りして、また学ぶ。



丸山 善行

今年も実直に。市民のための活動に全力!



笠原 征三郎

日本被団協ノーベル平和賞を機に核兵器廃絶前進の年に



中島 秀明

明確な計画の下に着実に実行することを今年は目指す!



吉田 浩

初心忘れず、はかり、論じ合い、思いをめぐらしたい



渡辺 太郎

藍よりして而も青し。岡谷市の発展のため一生懸命精進

ズバリ! 市政に問う!

令和6年
第5回定例会(12月)

ダイジェスト版

質 問	議員名	ページ
2028年国民スポーツ大会等が開催される競技内容は?	山崎 仁	4
上下水道事業について岡谷市の水道事業の整備の課題と対策は?	花岡健一郎	5
投票率向上のための施策に関連して、投票率の推移は?	上田 澄子	5
高齢者見守り支援策の主な事業とその現状は?	藤森 弘	6
小中学校におけるネットトラブルの現状は?	吉田 浩	6
育休退園の廃止を求めますが?	早出 すみ子	7
民間の力を引き出す公民連携についての研究は?	宇野 香二	7
市長公約の保育園副食費完全無償化の進捗状況は?	渡辺 太郎	10
長野県「アートの手法を活用した学び」推進事業の展開は?	今井 浩一	10
岡谷市歌の歴史と現状は?	酒井 和彦	11
道路パトロールの具体的な取り組みについて	土橋 学	11
道路交通法が改正されたが消防団の状況は?	丸山 善行	12
「学校給食費無償化」出来るところからとは?	笠原 征三郎	12
R7年度の予算要求額を前年度より5%減の理由とは	田村 みどり	13
給食費の値上がり分、公費負担の継続は?	秋山 良治	13

一般質問

●議員が、市政全般にわたり、執行機関である市に対して、事務の執行状況及び将来への方針などについて考えや意見を聞き、報告、説明を求めたり、質問をすることです。

年4回の定例会において行われ、議員活動の根幹をなすものといえます。

●質問順は、“くじ”で決めています。

※掲載内容は質問者の文責によるものです。

▶ 岡谷市公式チャンネル

★各議員のQRコードから一般質問の録画映像を見ることができます。スマートフォン等からアクセスしてご覧ください。



Q 市民総合体育館の改修日程は?
A 2年の工期とし、令和7年度は主にスワンドームの工事、令和8年

積極的に取り組む。

Q 県の補助金、日本スポーツ振興センターの助成金を活用。冬季競技の施設整備には補助制度が無く、県に創設を要望中。特定財源の確保に積極的に取り組む。

Q 施設整備には大きなお金が必要だが、費用の捻出は?

A 市民総合体育館は屋根や外壁の改修、バリアフリー対応、照明設備のLED化、トイレの洋式化などを予定。卓球競技会場となるスワンドームは競技団体から要望の多い冷房設備の整備や、床面の改修などをする。備品の整備は競技団体と調整して順次整えていく。

Q 国民スポーツ大会等に合わせた施設の改修工事や備品の整備内容は?



山崎 仁



Q 2028年国民スポーツ大会等が開催される競技内容は?
A 冬季大会のアイスホッケー、公開競技の綱引き、本大会の卓球、全国障害者スポーツ大会の卓球が行われる。

度は東体育館の工事を実施する予定。どちらか一方は利用できるようにする。

Q 地元開催にあたり、市民への情報発信や機運を高めるのか?

A 周知方法として、のぼり旗、ポスター、応援ボードの設置。大会に絡めた各種イベントの実施やボランティアの公募など、岡谷市全体で機運の醸成を図っていく。

岡谷湖畔公園の利用について

Q 新しいモニUMENTを傷つけるスケートボードの利用者と、他の市民とのトラブルが発生したと聞くと、対処の考えは?

A 都市公園条例で公園を損傷したり汚してはいけないとあり、現在、注意喚起の看板設置にむけて準備中。

Q 今後の予防、保護の考えは?

A 公園施設を含め日常の点検は勿論、計画に基づき予防保全、事後保全に努める。



人気の卓球

Q 上下水道事業について岡谷市の水道事業の整備の課題と対策は？

A 岡谷市水道事業基本計画により、施設整備を進めている。期間は、平成二十七年から令和十六年まで。施設の老朽化、給水人口の減少、地震の備えに取り組んでいる。市民のみなさんから、信頼される水道事業になるよう取り組みを進めている。



花岡健一郎



Q 岡谷市の下水道の地震対策は？

A 市の下水道管路は24.9km、「岡谷市下水道総合地震対策計画」により、地域防災計画に位置付けられた防災拠点や避難所、医療機関などを優先してそこからの排水を受ける下水道管の整備に力を入れている。また、市役所、岡谷市民病院、岡谷消防署などの防災拠点や、小中学校にマンホールトイレの整備を進めている。

Q その他について。

A その他の管路についても、現在下水道ストックマネジメント事業において、管路の改築・更新に併せ、耐震性を高めている。

Q 下水道使用料の見直しは？

A 下水道使用料については3年ごとに見直しをしている。令和7年から9年の3年間の使用料につ



令和5年度に整備した湊小学校のマンホールトイレ

て、上下水道事業運営審議会からの意見をふまえ、検討を進めた結果、国庫補助金制度を活用、財源確保ができると見とろしがついたことから据え置きとした。これからは、さらに経費の削減や、収納率の向上に努め、下水道事業の推進に努めたい。

Q 投票率向上のための施策に関連して、投票率の推移は？

A 全国的な傾向として投票率は年々低下している。要因として若い世代ばかりでなく全世代ともに低調で、岡谷市での令和6年衆議院議員総選挙での投票率は56.50%となっている。



上田 澄子



Q 期日前投票所及び選挙当日投票所の利便性向上については？

A 期日前投票所の増設については、二重投票の防止や場所を安定的に確保する課題がある。また、開設期間の拡大は店舗側との日程に係る協議が必要。当日の投票所・投票環境では、維持することが重要と考えている。

Q 郵便投票による不在者投票の推移は？

A 令和3年の衆議院議員総選挙から今回までをみると1件から6件である。移動投票所は現時点では導入の予定はないが、情報収集・導入効果の研究をしていきたい。

Q 市としての投票率向上のための施策は？

A SNSを活用した啓発活動や、小中高生対象、企業対象、街頭啓発活動などいろいろな取り組みを行っている。投票環境の整備など今後も情

報収集や研究など進めていきたい。

正規職員と会計年度任用職員について

Q 職員比率について、岡谷市の推移と、近隣市の状況は？

A 令和元年以降53%から54%で会計年度任用職員が多い。また、諏訪市52.7%、茅野市58.3%となっている。

Q 仕事内容、待遇の違いは？

A 会計年度任用職員は専門的な知識・経験・資格などから補助的・臨時的業務等を担当している。また、勤務時間、一部の手当、休暇、研修などには違いがある。

Q 職員の半数以上が会計年度任用職員というのは、他の市内事業所にも影響が大きい。希望する会計年度任用職員は全員正規職員として採用すべきと思うが、正規職員になった人数は？

A ここ5年で見ると、採用試験を受けて正規職員となったのは、年1名から2名となっている。



選挙に行こう!!

Q 高齢者見守り支援策の主な事業とその現状は？

A 現在の高齢化率は35・2%で全国平均を上回っている。課題を抱える高齢者を早期に見守り、早期支援に繋げるためには、重層的な見守り支援が必要と考えている。



藤森 弘



Q 具体的な主な見守り事業は？

A ひとり暮らしの高齢者を対象に急病時や緊急時に24時間現場に駆け付ける「24時間緊急駆けつけ安心サービス事業」や、虚弱なひとり暮らし高齢者等に対し食事を手渡しにて提供し安否確認を行う「配食サービス事業」、近隣住民の協力のもと見守り活動を行う「見守り安心ネットワーク事業」、協定企業と連携し行方不明者等の早期発見に努める「あつたか見守りネットワーク事業」などを実施している。

Q 「見守り協力員」とは？

A 主に80歳以上のひとり暮らしの方を対象として、近隣住民の方に負担の無い範囲の見守りをお願いしている方々を「見守り協力員」と呼んでいる。「新聞が溜まっている」「しばらく姿をみていない」などのさりげない「気づき」をお願いしている。

Q 心身ともに元気な高齢者にも地域共生社会の担い手になってもらう必要があるのではないかな？

A 令和6年9月に改訂された「高齢社会対策大綱」には、65歳以上を一律に「支えられる側」とするのは現実的ではなく、すべての人が状況に応じて「支える側」にも「支えられる側」にもなれる社会を目指すことが必要である、と明記されている。

Q 高齢者が参加しやすい形での地域活動の支援策の具体例は？

A 岡谷下諏訪広域シルバー人材センターでは、高齢者の生きがいづくりとともに豊富な経験や技術を發揮していただいている。各種団体の民生児童員には多くの65歳以上の方に中心的役割を担っていただいている。

また、買い物や通院など日常生活に必要な移動手段の確保が困難な高齢者等に対し、「地域支えあい型移動支援」を小井川区の有志など2団体にて実施していただいている。



訪問見守り支援

Q 小中学校におけるネットトラブルの現状は？

A 子どもたちのネットトラブルは、主に家庭の中で起きているケースが多く、全てを把握することの難しさもあるが、昨年度において、ネットトラブルに関する報告は4件であった。



吉田 浩



Q AIがもたらす子ども達の影響も懸念されるが、国が示すガイドライン（暫定的）を踏まえどのように取り組まれているのか？

A チャットGPTをはじめとした、生成AIを活用した様々なサービスが提供され、AIが一般生活に浸透している中で、学校においても「Aドрил」など、教材の活用が進んでいるが、子どもたち自身が深く考えを掘り下げ、自分で最適解を探る思考力や判断力、物事を正しく読み解く読解力等の育成にどのような影響があるのか心配な面もある。これらを含め、教育現場でのAIの活用につまきは、現在、国においてガイドラインの見直しが進められているので、それらを参考にしながら、教職員研修等の対応を行っていきたいと考える。

Q オーストラリアでは16歳未満のSNSの利用を禁止するニュースもあったが、市としての今後を見据えた方向性について、お考えは？

A 現代社会において、ネットワーフはなくてはならないものとなり、ネットやSNSを介して子どもたちが何等かのトラブルや犯罪に巻き込まれるリスクは高まっている。しかし、オーストラリアの対応については、普通に大人が使っているSNSを子どもだけ排除することについては、様々な考え方があっても良いと思うので、海外の対応は、その国判断と受け止める。児童生徒に関しては、ネットトラブルや犯罪に巻き込まれることがないように、また自身がその主体者にならないよう、危険性や注意点の周知・啓発に努める。



子どもたちの情報モラル教育

Q 育休退園の廃止を求めますが？

A 将来的には育休退園の廃止を目指す。保護者や近隣の市町村の動向を注視しながら、調査・研究を深める。



早出すみ子



Q 現状の制度の概要は？

A 保護者が育休休業を取得した場合、上にいる未満児が保育園を退園させられる。今年度から、産後2カ月から6カ月に見直している。対象人数は令和5年度は公立・私立合わせて15人、今年度は11月末現在で7名となっている。6カ月までの在園児は11名。

Q 産後6カ月まで変更した理由はある？

A 産後の母親の体調回復と保育サービスの両面から判断している。

【要望】岡谷市は育休休業中の学童保育を今年度から、受け入れている。早急に育休退園の廃止を。

Q 火の見やぐらの撤去は？

A 火の見やぐらの役目は終わった。老朽化に伴い倒壊の危険を確認できれば、撤去を視野に検討する。撤去するには一基100万円

の費用がかかる。

Q 現状は？

A 市内に18基ある。消防課や消防団員により、年数回点検している。修繕し対応している。

Q 活用状況は？

A 消防ホースの乾燥塔として運用している。防災行政無線スピーカーを設置している。半鐘の警鐘は禁止している。

Q 地震が起きた場合の危険や課題は？

A 老朽化が進み、地震などの災害で倒壊の危険が危惧される。課題は活用方法と維持管理方法。

【要望】撤去の実施とホースタワーの設置。



子育て支援をすすめる街へ

Q 民間の力を引き出す公民連携についての研究は？

A 将来的に新たな公共施設設置の必要性が生じた際には、その可能性も見込まれると考えている。五万人規模の自治体の活用事例が少ないことから、引き続き情報収集しながら研究を深めていく。



宇野 香二



Q 指定管理者を選定する際の採点で実績評価の加点により、新規参入を阻む事になっていないか？

A 競争原理の観点から配点内容に課題があったことから、今年度配点内容の見直しを行っている。

Q 指定管理者制度の課題は？

A 大きな課題としては捉えていないが、複数者からの応募は少ない状況であり、公募における幅広い周知に努めると共に、指定管理者との密な情報共有を行っていく。

持続可能な地域公共交通の構築

Q シルキーバスの十月二日からのダイヤ改正による効果は？

A 十月実績で利用者増の効果があり、今井長地線、長地今井線、延伸部分を予約制とした川岸橋原線いずれも前年度比増加している。

Q 「岡谷市地域公共交通計画」で掲げる目標達成により持続可能な地域

公共交通の維持が可能か？

A 目標達成をめざす一方で、社会経済情勢の変化への対応と本市における財政事情を考慮していく。

企業の人材確保と奨学金返還支援

Q 長野県の奨学金返還支援制度導入企業サポート事業について、市内企業への周知と申請状況は？

A 幅広く周知している。市内企業の中で補助申請している企業はないが、奨学金返還支援制度を設け、対象者が入社した際には制度活用を予定している企業はある。

Q 県や諏訪市等で行っているこの事業を本市でも実施する事で政策効果は大きいと思うがどうか？

A 企業の人材確保やUターン就職を促進する制度であるが、本市では魅力ある職場づくりを推進し、県制度の活用を促し、人材確保を後押ししていきたいと考えている。



持続可能なシルキーバス

特集

対話集会

おかげさまで多くの方に
参加いただきました!

日時 10月22日～12月17日の内 6日間
19時～20時30分

参加者数 のべ 約150名

場所 市役所、川岸支所、長地支所、
小坂区公民館、花岡区民センター
カルチャーセンター



令和6年11月21日 花岡区民センター講堂

市議会では様々な議会改革に取り組んでおり、その項目の一つが「議員のなり手不足への対応」に付随する「議員定数」、「議員報酬」です。特に「議員定数」は選挙に関する市民の皆さんの権利に関わることから、出来るだけ多くの市民の皆さんと議論を深めていきたいと考え、シンポジウム（議会のひろば第37号参照）の開催を皮切りに、市内6カ所に対話集会を開催しました。多くの方にご参加いただき貴重な意見交換ができました。

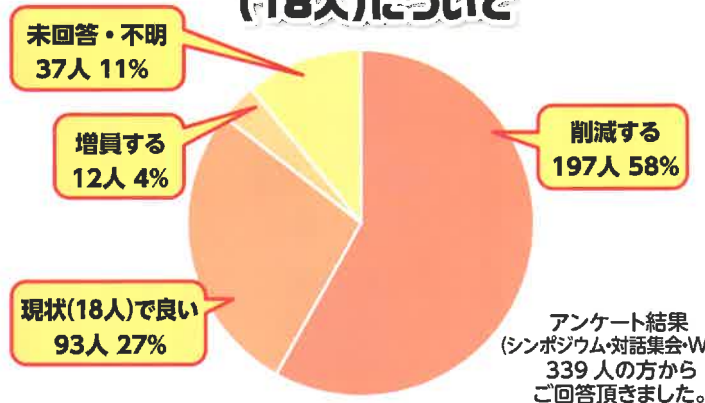
今回、対話集会でいただきましたご意見等の一部を紹介します。

参・・・参加いただいた市民の方の発言 議・・・議員の発言



令和6年10月29日 川岸支所・公民館講堂

Q. 岡谷市議会の議員定数 (18人)について



◆ 議員定数に関する発言

参 市民の声を行政に届けるには、なるべく議員は大勢いた方が良いのではないかと。全体を考えると18人は多いという雰囲気もあるが、逆に市民の声を届けるには18人では少ないということもある。

参 削減は慎重に検討すべきである。特に地元の区の意向を伝えてくれる地域に密着した市議会議員の存在は重要だ。本来ならば区の数に合わせて21人いるのが理想だが、それは現実的ではないので、市全体の人口に見合った数であるべき。

参 民意を反映させるのが議員の役割だと考えると、市民の声を反映させるために適切な議員数を検討してほしい。

参 (地域の代表のような形ではなく、個人の意思で立候補する人が増えた。今回の無投票は、各議員が自分の考えで立候補した結果。

議 地域の代表が減り、組織力のある政党や団体の代表が多くなり過ぎると草の根の民意が反映しにくくなる危惧がある。地域と市全体の両方の民意を反映させるために、定数問題の議論にはそのバランスが大切。

参 岡谷市の今後を考えると、人口が減少していく中で、少し減らすのはやむを得ない。

参 15、16人で十分ではないかと思う。市議会議員は区の代表ではなく、市全体のために活動すべき存在。市民として議員の具体的な活動内容を知りたいという思いがある。

議 議員数は多いほど市民との接点は増える。だが、それだけでは解決にならない。重要なのは、専門性や市民のために尽力する精鋭がどれだけいるかだ。

参 定数を減らしても選挙が行われるかは不透明。各議員への負担が増えることで、業務が回らなくなる恐れがある。

議 議会改革の一環として、議員活動の役割や運営体制を見直している。議員の経験に応じた役割分担が必要だが、定数が減れば、新人議員に過度な負担がかかる可能性もあり、慎重な議論が必要。

●削減すべき。現在の議会は「打ち合わせ前提」の会議に見える。本音での討論が行われていないのではないかな。

●議会運営は「打ち合わせ前提」ではない。議案への責任は非常に重く、市民に説明責任を果たすための真剣な議論が行われていることを理解してほしい。

●ある程度の削減は仕方がない。減らし過ぎると委員会の運営に支障をきたしたり、多様な意見の反映が難しくなる懸念がある。もつと議員になりやすい環境を整えるべきではないか。例えば、夜の議会にしてサラリーマンが議員になりやすい仕組みにするとか。



令和6年11月18日 小坂区公民館講堂

●議員の質を高め、少数でも効果的に行政と対等に対話できる議会を目指したいとは考えている。ただ、民意を反映するためには、一定の人数が必要という意見もあり、慎重に検討していきたい。

●そもそも定数に意味があるのか疑問。大切なことは「なり手不足」の解消、つまり立候補者を増やすこと。立候補者がいなければ、定数を減らしても変わらない。立候補者をどう増やすか、そこが議論の中心になるべき。

●議員に魅力を感じてもらうことが重要。



令和6年12月17日 イルプラザ3F研修室

◆議員報酬に関する発言

●20年間もベースアップされておらず、それがなり手不足につながっている可能性もあるのではないかな。物価が上がっているのだから、議員の報酬だって上げていいはず。若い人になり手がないのは当然で、若い人の民意が反映されない。議員の報酬（期末手当）についての評価制度があってもいい。

●現状で十分である。多様な職業を持つ議員が活動している実情を市民にもっと知らせることが重要だ。

●議員報酬を議員活動の成果に応じて増額しても良いのではないかな。

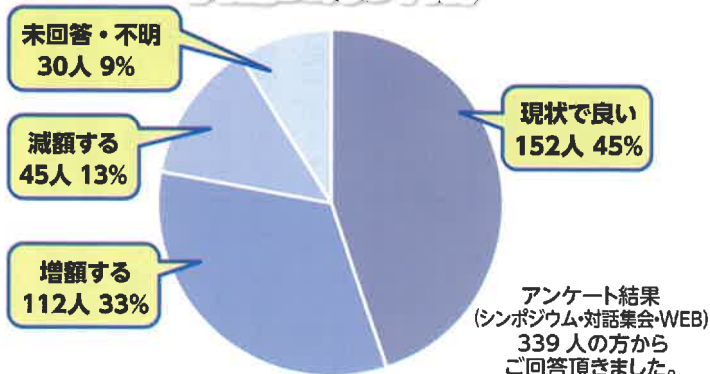
●高くなればなり手が増えるかもしれないが、本当にその報酬に見合った働きができるかどうかは別問題。

●若い世代や子育て中の議員にとつては、現状の報酬では不十分だと感じる。



令和6年11月7日 長地支所・公民館講堂

Q. 議員報酬の報酬について (月額35万3千円)



今後の予定

様々な角度からいただいたご意見を今後の議論にしっかりと生かし、結論を出してまいります。また、市議会議員としての責任を再認識し、市民の皆さんの声に今以上に耳を傾け、市とともに岡谷市の未来のために、様々な課題等を誠実に調べ、議論してまいります。

1月からは、全議員で構成する議会改革検討委員会で各議員の意見を聴取検討し、その後令和6年度中を目途に結論を示してまいります。

Q 市長公約の保育園副食費完全無償化の進捗状況は？

A 予算編成作業において、市の財政状況やまちづくり全体のバランスを鑑みの中で、実行の可否を判断している。できることから取り組み、公約の実現に向けて前進していきたい。



渡辺 太郎



Q 財源確保の検討はしているか？

A 市単独での実施は困難がある。県との懇談の中で、財源支援の要望・調整を行っている。完全無償化には国の免除制度を除いた約3800万円が必要になる。現在、市独自の免除は381人、約1350万円であり、差額の2450万円の負担が必要になる。

Q 子ども医療費の窓口無料化

A 岡谷市は1レセプト当たり500円の自己負担があり、以前から窓口完全無償化を望む多くの声がある。子ども医療費の窓口完全無償化は全県的に広がりつつあるが市の考えは？

A 窓口負担の無償化を実施した場合、年間で約3000万円が必要になる。実施は、国や県の動向や社会経済状況、子育て支援拡充の気運の高まり、時代の変化や流れを注視していきたい。

Q 既に伊那市、中野市、飯山市が実施している。明年に松本市や長野市、塩尻市、安曇野市が実施予定と聞いている。岡谷市も他市に遅れないよう実施に向けて早急に検討が必要ではないか？

A 県内のみならず全国的にもレセプト料の無償化が進んでいることは承知している。県内においても多くの市町村が実施の方向であり、しっかりと庁内で検討しながら、実現に向けて進んでまいりたい。

Q 学校体育館と市民総合体育館へエアコン設置の検討は？

A スワンドームは冷房設備を整備する予定。学校体育館は整備費用も多額となり現時点では困難だが、災害時の避難場所でもあり、しっかりと庁内で検討していきたい。

Q 学校体育館と市民総合体育館へエアコン設置の検討は？



武井武雄(カレンダー9月)1973年
©岡谷市/イルフ童画館

Q 長野県「アートの手法を活用した学び」推進事業を展開する考えは？

A 本年度の川岸小学校1年2組での取組の様子や成果などを市校長会で共有し、教員向けに県が実施しているワークショップ等の周知を図り、有効性を広げていきたい。



今井 浩一



Q 川岸小での授業の手応えは？

A この授業は長野県、県教育委員会が子供たちの表現力やコミュニケーション力、自己肯定感を高めることができるよう、アートの手法を生かしたプログラムを教育現場で実践、学校等への定着を目指す取り組みの一環。ファシリテーター「にちようカラダのワークショップ」との事前打合せでは担任の先生の願いや学級の雰囲気、配慮が必要な児童の様子、クラスで流行っていること等を伝えた。

当日は、子供たちの自由な発想を大切に、体を使った様々な表現を体験し、表現する面白さ、ペアを組んだ友達と協力する大切さを発見できるような工夫を凝らしたプログラムを実施。学校からは「子供たちが心を開く活動を通して、自分が本当にやってみたいこ

とを表現し、楽しい！という感覚を体験したことで、休みがちだった児童が、友達と一緒に学びたいとの気持ちを持つようになった」、担任の先生からは「自己決定を伴う活動、自分の思いを表現し楽しむ体験が自己肯定感を育む上で非常に自由と実感した」との感想をいただいた。

Q 教育委員会のサポートは？

A 本年度の取組については県事業として費用負担していただいた。子供たちの自己肯定感やコミュニケーション力を高める取り組みとして、他校への実践が広がる場合には、学校の特色を生かした活動のための魅力ある学校づくり交付金等によるサポートができると考えている。



長野県「アートの手法を活用した学び」推進事業リーフレット

Q 岡谷市歌の歴史と現状は？

A 昭和24年5月からの公募で小浜梅窓氏の歌詞を採用、堀内敬三が曲を付して同年11月3日に市歌として制定。新年祝賀会や小学校の交歓音楽会等で現在も歌唱。



酒井 和彦



Q 岡谷市歌の楽譜の管理は？

A 音源とともにデジタルデータで管理。

Q 自筆譜または納品資料などの制定当時の楽譜は？

A 存在が確認できていない。

Q 市のウェブに掲載されている楽譜はハ長調だが、実際に歌唱される場合は変ロ長調である。理由は？

A 制定当時の楽譜もなく、経緯は不明。

【要望】市のウェブや学校副読本「わたしたちの岡谷」の楽譜を実際と同じ変ロ長調で記載してほしい。

文化財の保管施設について

Q 教育委員会分室は資料が大変多くかなり手狭なようだが、状況は？

A 効率的に活用するよう努めているが、収蔵スペースの不足は課題。

Q 増築や移転の予定は？

A 岡谷市公共施設個別設計計画に

沿って検討を進め、令和7年度中には方向性を決定したい。

防災倉庫の備蓄品について

Q 各区の公民館の防災倉庫やその備蓄品の位置づけは？

A 地域住民主体の防災活動の拠点であり、地域の重要な資源と位置づけ。

【要望】各区で準備すべき備蓄品の相談をする場を設けてほしい。

職員の年次休暇取得について

Q 令和5年度の年次休暇取得日数が前年度よりも減った理由は？

A 特別休暇の夏季休暇が従来の3日付与から5日に増えたためと史料。

Q 仕事量に比べて職員数が不足していないか？

A 適切な人員配置に努めている。



歌い継がれる岡谷市歌

Q 道路パトロールの具体的な取り組みについて

A 市道延長総39.5kmを対象に、職員による日常パトロールや月3回、5ブロックに分けた2名体制の定期パトロールを実施しています。現況調査や市民通報、アプリ活用で破損箇所の早期発見に努めています。



土橋 学



Q 市民通報やアプリ活用による課題と対応は？

A 通報の中には市の管理区域外の情報もありますが、多くは市道維持管理に役立っています。現地確認後、必要に応じて修繕し、通報者には丁寧に説明し、公平な対応を心掛けています。

Q 通報と対応の優先順位はどのように決めていますか？

A 令和5年度は785件の通報があり、多くは舗装の穴や側溝破損、カーブミラーや区画線など安全施設の要望でした。緊急性の高い箇所を優先的に対応しております。

若草保育園の現状と今後について

Q 若草保育園の休園理由と再開の目安は？

A 園児数の減少により平成31年度から一時休園しています。再開に

は一定の園児数が必要ですが、現在も入園希望はありません。

Q 若草保育園の今後について

A 現在、中期計画により川岸学園の幼保連携認定こども園整備を進めておりますが、若草保育園を含めた未整備園に関する将来の方向性は、中期計画が完了するまでに検討、立案するとしています。

自転車用ヘルメット

着用促進について

Q ヘルメットの着用率向上に向けた取り組みは？

A 購入費補助制度を導入し、広報活動や学校での交通安全教室を実施しています。中高生には関係機関と連携し、ヘルメット着用の重要性や交通ルールを指導し、徹底を図っています。



道路の維持管理

Q 道路交通法が改正されたが消防団の状況は？

A 消防ポンプ車等は第1分団、第5分団は5トン以上で、その他の9個分団は3.5トン以上。また、準中型車を運転できる団員数は、10月1日現在400人。



丸山 善行



Q 準中型免許の取得補助についての考えは？

A 消防団からの要望や団員確保と強化充実、若手育成も含め補助制度の創設に向け前向きに検討を進めたい。

Q 車両重量が5トンを超える2個分団へ限定を解除する補助制度は出来ないか？

A 消防ポンプ車の更新時には5トンを超えない仕様とするとともに、補助制度の創設にむけ、前向きに検討を進めたい。

Q 資格取得に必要な費用の一部を助成する制度導入の考えは？

A 消防団員が資格等を取得することで、モチベーションの向上、団員の確保対策にもつながるといったことも聞いている。近隣市町村の状況も注視し研究・検討したい。

Q 不登校の現状は？

A 令和5年度は小学校50名、中学校70名で過去最多。令和6年度も増加傾向。

Q 不登校児童生徒への支援は？

A 全中学校に中間教室、諏訪湖ハイツにフレンドリー教室を設置し学校への復帰を促し、自立に向けた支援や学習支援を実施。児童生徒や保護者向けに相談支援やアウトリーチ型支援も実施している。

Q 岡谷市におけるフリースクールの現在の考え、位置づけは？

A 学びの多様化は大切な視点のため、今後は学校に通うことができない子どもたちの受け皿として、地域に広まってくと予想。本年度から始まった県の認証制度も踏まえ実態の把握に努めたい。

Q 費用の一部負担をする考えは？

A 経済的支援が必要なケースもあると思うので、利用状況や他市町村の動向を参考に検討したい。



多様な学びの確保を

Q 「学校給食費無償化」出来るところからとは？

A 一度に100%の無償化ではなく、例えば来年度は30%、次の年度は60%まで、3年目までには100%の無償化を行っていくと理解していただいて結構だ。



笠原征三郎



Q プレミアム付き商品券等の適時適切な施策を図る

A 物価高騰から市民生活を守るには、プレミアム付き商品券の発行を行うべきだ。

Q 閣議決定された「重点支援地方交付金地方交付金などにより総合的な対策が講じられる。

Q 石破首相も「地方創生交付金を倍増を前倒しして支援していきたい」と言っている。

A 11月22日の閣議決定の経済対策によると、地域の実情に応じた物価対策を後押しされている。財源確保の見通しが立てば商品券事業を含め、適時適切な施策展開を図ってきたい。

Q 75歳以上の高齢者の「医療費窓口負担金」の軽減を

A 政府は、75歳以上の高齢者の医療費窓口負担金の、3割負担の対象

拡大を検討するといったっている。これは高齢者の受診控えにつながる。岡谷市独自の支援策が必要だ。

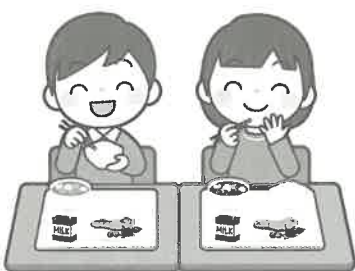
Q 今後、さらに進展する少子高齢化の課題を考えれば見直しの検討も必要と捉えている。

A 市の財政を考えると独自の支援を行うことは難しい。

Q 市長の公約「学校給食費の無償化」

A 9月議会以降「学校給食費無償化」に向けて、どのような努力をされてきたか。

A 長野県に対し財政支援の要望・調整を行ってきた。県選出の国会議員との懇談の場においても、学校給食費無償化の実現に向けた財政支援を要望してきた。



楽しい学校給食

Q R7年度の予算要求額を前年度より5%減の理由とは？

A 歳入は、市税の大幅な増収の見込みは難しく、歳出は、重点施策の着実な推進と将来に向けた投資が必要。一方、後年度の財政運営の影響を最小限とし、持続可能な行財政基盤を堅持するため。



田村みどり



第7次岡谷市男女共同参画計画(案)

Q 新たな取り組みに、市役所の女性管理登用を入れた経緯と内容は？

A 男女共同参画審議会や市民アンケートから「行政が積極的に女性登用を進めてほしい」とのご意見があり、また、国・県・他市町村の計画でも行政の女性管理職登用促進に力を入れていることから。内容は、女性職員の意欲や能力の向上を図り、管理監督者にふさわしい人材の育成を行う。

第5次岡谷市環境基本計画(第2次岡谷市地球温暖化対策実行計画)(案)

Q 第5次環境基本計画(案)と第2次岡谷市地球温暖化対策実行計画(案)を統合した経緯は？

A これまでは2つの計画に基づき施策を推進してきたが、地球温暖化問題は自然環境の保全や循環型社会の構築など他の環境問題と密接に関

連していることから、より効果的に全体で取り組むため。

なお、本計画では、市民・事業者・行政それぞれ取り組むべき具体的内容を明確にし、連携・協力しながら望ましい環境像の実現を目指す。

休日の部活動の地域移行への取組

Q R6年における、長野県及び岡谷市の休日の学校部活動の地域移行への取組状況は？

A 県では、今年度から県と市町村が情報共有を行う会議を設け、市町村の枠を超えて指導者や協力者の確保ができるよう「信州地域クラブ活動指導者リスト」を開発。

市教育委員会としては、地域の指導者の確保に向け、スポーツ団体等との連携も図るとともに、引き続き指導を希望する教職員の関わり方の検討等を進め、見通しの立ったクラブから地域移行を進めていきたい。



目指せ！地球にやさしい環境のまち岡谷

Q 給食費の値上がり分、公費負担の継続は？

A 本年度も昨年度に引き続き、給食食材費の値上がり分を公費で支援。今後、食材価格が落ち着く状況にはないため、公費による負担を継続していく必要があると考える。



秋山 良治



Q 給食費の更なる値上げの考えは？

A 現時点では未定。本年度の価格変動が、来年度の単価に反映されるため市中経済状況を見極めながら協議。

Q 市内小中学校での自校調理の継続は？

A 従来から食育の環として、自校給食を大切にしており、今後も継続したい。投票率向上に向けた取り組みについて

Q 投票率向上に向けた取り組みは？

A 投票率低下に対して危機感を持っている。啓発活動や投票しやすい環境づくりについて実施と検討を重ねている。

Q 主権者教育の取組みは？

A 出前講座にて、学校と協力しながら模擬投票で選挙に関心を持ってもらうよう地道な活動を実施。

Q 諏訪湖サイクリングロード活用推進事業におけるモニメントについて

Q 岡谷市や岡谷市の観光への効果は？

A 観光客が諏訪湖、八ヶ岳を背景に写真を撮り、SNS等で発信、拡散することで、岡谷市の知名度向上、観光客の促進を期待。

Q モニメント制作・設置までの経過は？

A 地元の高校生、岡谷市への移住者や区長会、岡谷市商工会、岡谷市観光協会、岡谷市ブランドプロモーション協議会、地域おこし協力隊、諏訪湖八ヶ岳自転車活用推進協議会、諏訪地域振興局商工観光課の代表など11名でプロポーザル審査委員会の設置をして意見をいただいた。デザインから設計・板金・塗装・設置まで全ての工程を市内企業が行った。

Q 耐久性と今後の管理は？

A 素材には鋼板を使用、耐衝撃性・耐久性に優れた塗料により強度を有している。今後は湖畔公園の管理として土木課が行う。



給食費の値上げもあるのかしら？

令和6年 第5回定例会 (主な議案の審査
審議結果)

令和6年11月29日(金)から12月12日(木)までの14日間で開かれ、報告案件2件、議案8件が審査・審議されました。主な審査・審議結果は次のとおりです。

◆議案第86号

岡谷市役所出張所設置条例を
廃止する条例

本会議での提案説明(議案の内容)

令和4年1月に「岡谷駅前出張所」から移設した「イルフプラザ出張所」の開設期間は、岡谷市公共施設個別施設計画の方針として令和6年度末までとしており、現状の取扱実績やマイナンバーカードの普及状況等を考慮し、「イルフプラザ出張所」は継続しないこととし、令和6年度末を以って廃止することとしたため、この条例を廃止する。

※本会議での説明等の後、総務委員会に審査付託。

あわせて、利用状況の観点、市民サービス維持の観点、また自治体DXや地域のDXの推進拠点としての有効性、費用対効果等から、廃止延期の可能性について議論を深めるよう付託事項あり。

◆総務委員会の主な質疑

岡谷市役所イルフプラザ出張所の令和6年度上半期の取扱実績

は、収納業務が1463件、証明発行業務は1312件である。らくらく証明発行機器のイルフプラザへの設置については、100万円程度の費用を要することから、費用対効果等を踏まえると新たに証明発行機器を導入することは難しいと考える。コンビニ交付機器の操作体験やパンフレットの全戸配布、市のホームページでの解説など、より一層マイナンバーカードを活用した証明発行の利用促進を図り、周知に努める。

出張所にかかる経費は、会計年度任用職員の人件費や機材等の使用料などを含め年間300万円程度経費には換算できない一定の負担が生じている。

また、自治体DXや地域のDXの推進拠点としては考えていない。引き続きイルフプラザの窓口でもマイナンバーカードに関する問合せなどがあれば丁寧な説明に努めるとともに、必要に応じて講座を開催するなど、マイナンバーカードの普及・利活用の促進に向けて柔軟に対応していく。

※質疑討論の後、採決が行われ、委員会で賛成多数で可決。

本会議において議案の審議

※採決により本議案は、賛成多数により可決されました。

◆議案第87号

岡谷市文化会館条例等の
一部を改正する条例

本会議での提案説明(議案の内容)

使用料・手数料等は、第2次岡谷市行財政改革プログラムにおいて3年ごとに見直しを行うこととしており、経済物価情勢の変化や本市の財政状況などを考慮し、適正な料金が設定されているのか現状の検証を行い、受益と負担の適正化や公平性の確保を図るとともに、将来にわたり必要な行政サービスを継続的・安定的に提供していくため実施したものである。

一般会計及び特別会計の使用料・手数料及び諸収入を対象とし、改正するものである。

※本会議での説明等の後、総務委員会(イルフプラザ、公民館、スポーツ施設等)、社会委員会(総合福祉センター、霊園)、産業建設委員会(文化会館、童画美術館、蚕糸博物館、テクノプラザ等)に審査付託。

(以下、一部抜粋)

◆社会委員会での主な質疑及び討論

改正に伴う影響についての質疑があり、現在約2,600区画が使用許可されており、その方々に今回420円の増額分を負担していただく。経費の見直しは人件費

の高騰や光熱水費の高騰により難しい部分はあるが、引き続き経費節減に努めていく。

討論においては、文化施設や霊園等における使用料の値上げは、市民に大変大きな影響を与えることから、本議案には反対する。

一方、今回の改正は3年に一度の見直しによるものであり、社会情勢に併せた改正となっていること。また、受益者負担の公平性の観点から本議案には賛成する。

※質疑討論の後、採決が行われ、社会委員会で賛成多数で可決。

◆産業建設委員会での主な討論等

討論において、一つひとつの値上げの金額は小さいが、利用者にとって年間で大きな金額となる。物価高で生活に大きな影響が出ている中であることから、本議案については反対する。また、賃金アップが物価高に追いついていない時期に、市が担うべき文化振興にマインナスの影響があることから、本議案に反対する。

一方、利用料等については、受益者負担が原則であり、他の財源とのバランス、負担の公平性の点から本議案には賛成する。また、使用料等の174項目のうち、厳選した34項目での値上げであることや、受益者負担の原則と市全体

の財政状況を踏まえ、本議案に賛成する。

※質疑討論の後、採決が行われ、委員会では賛成多数で可決。

本会議において議案の審議

※採決により本議案は、賛成多数により可決されました。

各議案に対する議員の採決態度については、ホームページをご覧ください。



ホームページ

<http://www.city.okaya.lg.jp/okayashigikai/>

ご意見・ご要望

市議会だよりについて、ご意見・ご要望をお受けいたしますので、下記までお寄せください。

連絡先

岡谷市議会事務局
TEL23-4811（内線1711）FAX22-6213

メール

gikai@city.okaya.lg.jp

○令和6年 第5回定例会（全会一致により可決された議案等）

議案番号	件名	今井康善	秋山良治	土橋学	花岡健一郎	山崎仁	小松壮弘	藤森香二	宇野香一	田村みどり	酒井和彦	上田澄子	早出すみ子	今井浩一	遠辺太郎	吉田浩	中島秀明	笠原征三郎	丸山善行
報告第21号	専決処分の承認を求めることについて（令和6年度岡谷市一般会計補正予算（第8号））	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
報告第22号	専決処分の報告について（和解及び損害賠償の額の決定について）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
議案第86号	岡谷市役所出張所設置条例を廃止する条例	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第88号	岡谷市都市公園条例の一部を改正する条例	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第89号	岡谷市布設工事監督者の配置基準等に関する条例の一部を改正する条例	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第90号	諏訪広域連合規約の一部変更について	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第91号	令和6年度岡谷市一般会計補正予算（第9号）	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第92号	令和6年度岡谷市水道事業会計補正予算（第1号）	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第93号	令和6年度岡谷市病院事業会計補正予算（第5号）	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○令和6年 第5回定例会（賛否が分かれた議案等一覧）

議案番号	件名	今井康善	秋山良治	土橋学	花岡健一郎	山崎仁	小松壮弘	藤森香二	宇野香一	田村みどり	酒井和彦	上田澄子	早出すみ子	今井浩一	遠辺太郎	吉田浩	中島秀明	笠原征三郎	丸山善行
報告第87号	岡谷市文化会館条例等の一部を改正する条例	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	○

議長は議長職のため採決に加わらない

○：賛成

×：反対

趣…趣旨採決。請願の趣旨について採決する決定方法。

○令和6年 第5回定例会（陳情の審査結果）

陳情番号	件名	付議委員会	審査結果
陳情第45号	国民健康保険財政への国庫負担の増額を求める陳情書	社会委員会	趣旨採決
陳情第46号	令和7年度 岡谷市土木関係要望箇所（今井区）	産業建設委員会	採決
陳情第47号	令和7年度 土木要望書（間下区）	産業建設委員会	採決
陳情第48号	令和7年度 土木関係に関する要望書（下浜区）	産業建設委員会	採決
陳情第49号	令和7年度 市土木関係事業に係る要望書（小坂区）	産業建設委員会	採決
陳情第50号	令和7年度 市土木事業に係る要望書（上浜区）	産業建設委員会	採決
陳情第51号	令和7年度 道路・河川等土木関係要望書（新屋敷区）	産業建設委員会	採決
陳情第52号	令和7年度 土木事業に係る要望（小井川区）	産業建設委員会	採決
陳情第53号	令和7年度 要望書（西堀区）	産業建設委員会	採決
陳情第54号	令和7年度 要望書（花岡区）	産業建設委員会	採決
陳情第55号	令和7年度 土木関係要望書（小口区）	産業建設委員会	採決
陳情第56号	令和7年度 土木関係要望事項について（岡谷区）	産業建設委員会	採決
陳情第57号	令和7年度 土木関係要望書（新倉区）	産業建設委員会	採決
陳情第58号	令和7年度 土木関係要望書（站沢区）	産業建設委員会	採決
陳情第59号	令和7年度 要望書（橋原区）	産業建設委員会	採決
陳情第60号	令和7年度 土木等整備事業要望箇所について（東堀区）	産業建設委員会	採決
陳情第61号	令和7年度 土木事業要望（中村区）	産業建設委員会	採決
陳情第62号	令和7年度 土木関係要望書（横川区）	産業建設委員会	採決

編集後記

新年おめでとうございませう。2025年の始まりはいかがでしたか？これを書いているのは1月9日です。

議会では昨年末に市内6カ所で市民の皆さんと対話集会を行いました。議員のなり手不足解消に向け、議員定数を見直すかどうかの検討に生かすためです。定数の話題を切り口に話は広がり、温かい意見も厳しい意見もいただきました。

「議会や議員は日ごろどんな活動を？」。対話集会で何度も聞かれた質問です。積極的な発言をしない多数派をサイレント・マジョリティと言いますが、そうした皆さんにも、どう情報を届けるか、編集後記を書く手が思わず止まります。特に本会議と本会議の合間こそ、伝えねば。そんなことを思う日々でした。（今井浩一）

議会広報広聴委員会

委員長：小松 壮

副委員長：早出すみ子

委員：宇野香一

今井浩一・遠辺太郎
吉田 浩・山崎 仁



岡谷市今昔物語 故きを温ねて新しきを知る みんなと歩んだ100年

いくつも夜店が並ぶ通りに繰り出している工女さん。製糸業華やかなりし昭和初期の岡谷市中央通り。岡谷近代化産業遺産を伝える会の皆さんによれば、背景の製糸工場の様子から今のイルフプラザ(アミューズメント棟)のあたりではないか、とのこと。

場所はあくまでも推測されるレベルとのことで、情報をお持ちの方は議会事務局までお知らせください。TEL:0266-23-4811 内線1711



写真提供・岡谷蚕糸博物館



「ただければ」とお話をいただきました。今井議長から「人手不足への対応などでデジタル化を推し進めていかなければいけない。市民の代表である議員が有効に活用していくことが、地域の将来に向けて大切だと思う」と話がありました。



寄贈いただきました!

(株)エンジヨイワークス様より、岡谷市に、多機能を有するモニター(65インチ)をご寄贈いただきました。同社小島勝彦社長(岡谷市出身)からは「地元岡谷市へ貢献をしていきたい。働き方の多様化やICT化の進展に対応し、様々な場面で活用ができる。今回は主に議会活動等で使っていただければ」とお話をいただきました。

いちい学級「議会見学&議員さんとの座談会」

10月17日カルチャーセンターのいちい学級を開催しました。「議会見学&議員さんとの座談会」をテーマにして、約30名の受講生の皆さんをお迎えしました。議場見学等と18名の議員と市に対して日頃感じていることなど、意見交換を行いました。議会では、市民の皆様からの貴重なご意見等を常に大切にしていきたいと思います。

